

温泉分析書

ホクカン 分析センター 温泉 第 04001 号

1 申請者 (住所) 北海道旭川市3条通7丁目左6号
(氏名) ダイエー 株式会社 取締役社長 米澤 慶治

2 源泉名 および 温泉 (源泉名)
湧出地 北海道空知郡中富良野町字富良野原野724番地4

3 湧出地における調査および試験成績

(イ) 調査および試験者 : 株式会社 ホクカン 環境化学分析センター 板垣 沙織
(ロ) 調査および試験年月日 : 平成 17 年 3 月 4 日
(ハ) 泉 温 : 41.8 °C (気温 : 1 °C) (ニ) 湧出量 : ℓ/min. (動力揚湯)
(ホ) 知覚的試験 : 無色透明、弱カン味、微弱金気臭
(ヘ) pH 値 : 7.5 (ト) ラドン (Rn) : マンヘ単位 / kg

4 試験室における試験成績

(イ) 試験者 : 株式会社 ホクカン 環境化学分析センター 武田 直樹
(ロ) 分析終了の年月日 : 平成 17 年 3 月 14 日
(ハ) 知覚的試験 : 弱黄色微濁、弱カン味、微弱金気臭 (採水後 4時間)
(ニ) 密度 : 1.0024 (20 / 4 °C)
(ホ) pH 値 : 7.45
(ヘ) 蒸発残留物 : 5.498 g/kg (180 °C)

5 試料 1kg 中の成分 : 分量および組成

(イ) 陽イオン			ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)	(ロ) 陰イオン			ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
水素イオン	H ⁺					フッ素イオン	F ⁻		1.6	0.08	0.09
ナトリウムイオン	Na ⁺		1593.	69.29	75.56	塩素イオン	Cl ⁻		3206.	90.43	96.55
カリウムイオン	K ⁺		17.5	0.45	0.49	水酸イオン	OH ⁻				
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺		0.8	0.04	0.04	硫化水素イオン	HS ⁻		0.0	0.00	0.00
マグネシウムイオン	Mg ²⁺		32.0	2.63	2.87	チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻		0.0	0.00	0.00
カルシウムイオン	Ca ²⁺		379.7	18.95	20.67	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻		0.0	0.00	0.00
アルミニウムイオン	Al ³⁺					炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻		185.2	3.04	3.25
マンガンイオン	Mn ²⁺		0.8	0.03	0.03	炭酸イオン	CO ₃ ²⁻		0.4	0.01	0.01
第一鉄イオン	Fe ²⁺		2.0	0.07	0.08	臭素イオン	Br ⁻		8.1	0.10	0.11
第二鉄イオン	Fe ³⁺		0.3	0.02	0.02	リン酸イオン	HPO ₄ ²⁻		0.1	0.00	0.00
リチウムイオン	Li ⁺		1.5	0.22	0.24						
計			2028.	91.70	100.	計			3401.	93.66	100.

(ハ) 遊離成分

非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタ珪酸	H ₂ SiO ₃	97.9	1.25				
メタ硼酸	HBO ₂	71.2	1.62				
メタ亜ヒ酸	HAsO ₂	0.3	0.00				
計				計		169.4	2.87

溶存物質 (ガス性のものを除く) 5.598 g/kg

溶存ガス成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素	CO ₂	32.3	0.73
遊離硫化水素	H ₂ S	0.0	0.00
計		32.3	0.73

成分総計 5.630 g/kg

(ニ) その他微量成分

アルミニウム : 0.025mg/kg、銅 : 検出せず、亜鉛 : 検出せず、カドミウム : 0.001mg/kg、
鉛 : 0.004mg/kg、総水銀 : 検出せず。

6 泉 質 : ナトリウム・カルシウム塩化物泉 (低張性弱アルカリ性温泉)

7 禁忌症、適応症 : 「温泉分析書別表」中5に記載する。

平成 17 年 3 月 14 日

登録分析機関 登録番号 北海道第3号
北海道旭川市永山14条3丁目3番4号
株式会社 ホクカン 環境化学分析センター
代表取締役 木村 進



温泉分析書別表

1 源泉名 :		
2 源泉所在地 : 北海道空知郡中富良野町字富良野原野724番地4		
3 温泉分析申請者 : 北海道旭川市3条通7丁目左6号 ダイエー株式会社 取締役社長 米澤 慶治		
4 泉 質 : ナトリウム・カルシウム-塩化物泉 (低張性弱アルカリ性温泉) (旧泉質名: 含塩化土類-食塩泉)		
5 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症は次のとおりである。		
浴 用	禁 忌 症	急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (特に初期と末期)。
	適 応 症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病。
飲 用	禁 忌 症	腎臓病、高血圧症、その他一般にむくみのあるもの。
	適 応 症	慢性消化器病、慢性便秘。
浴用、飲用の 一般的注意事項		1 入浴の方法及び注意 (1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。 (2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、慣れるにしたがって延長してもよい。 (3) 入浴中は運動浴の場合は別にして、一般には安静を守りこと。 (4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。 (5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。 (6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」を起こし易い人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。 (7) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。 (8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。 (9) その他 2 飲用の方法及び注意 (1) 飲用の1回量は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1000mlまでとする。 (2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。 (3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。 (4) その他 ◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい
平成 〇 年 〇 月 〇 日		
決定者 北海道立衛生研究所長 本 間 寛		

